

審査の結果の要旨

氏名 Helena Sayuri Yamada

本研究は、日本における日系ブラジル人子弟の精神および行動上の問題の、リスク要因予測変数との相関を明らかにするため、CBCL、GHQ-28、CAPS-CAの質問紙を用いて調査を行い、下記の結果を得ている。

1. **Child Behavior Check List (CBCL)** 質問紙ではまず、日本における日系ブラジル人子弟の行動プロフィールを得るために2つのコントロール群(日本の同地域に住む同年齢の日本人子弟と、ブラジルに住む同年齢の日系ブラジル人子弟)と平均スコアを比較した。結果として、日本に住む日本人子弟のスコアが全体的により低いことがわかった。
2. 在日日系ブラジル人子弟の精神及び行動上の問題にかかるリスク要因予測変数としては、「人口統計学的データ」、「心的外傷」、「親の精神状態」で有意な相関が見られた。
3. 人口統計学的には日本に短期間(12-60ヶ月)滞在している日系ブラジル人子弟により問題行動が見られた、特にCBCLの総得点および外向的尺度に有意差が見られた。また、公立日本人学校に通っていない日系ブラジル人に外向的な行動が見られた。
4. 心的外傷と精神的健康との相関はGHQ-28で示された。心的外傷の体験があり、それがブラジルおよび日本の両国で起こった者、また多数および重度の心的外傷を受けた日系ブラジル人子弟において、精神衛生状態に問題が見られた。

5. 日系ブラジル人の親の健康状態が子供の精神衛生と相関があることも理解された。しばしば不安と不眠に悩む親に、社会的障害を持つ子弟が見られた。
6. 階層的変数選択による4段階回帰分析において、最後のステップで独立変数「日本での滞在=短期」(12ヶ月-60ヶ月)を加えると、人口統計学的に日系ブラジル人子弟の重相関係数の増加が見られた。

以上、本論文は日本における日系ブラジル人子弟の精神衛生上の問題を明らかにし、人口統計学的リスク要因を確認した。在日日系ブラジル人を含む日本の外国人口は今後とも増加の勢いにある。彼ら新来移住者が親子の人間関係を円滑に保てるよう、また良好な居住労働環境にあって、来日後速やかに日本文化理解を進められるよう、きめ細かな受け入れ政策の緊要性が示唆された。